

課題

「全国学力・学習状況調査」における 教科・質問紙調査の結果を組織的に活用できていない

手立て

教科・質問紙調査での課題に対し、「推進体制の構築」「授業改善」「家庭の協力」「教育課程の編成」の4つの観点を意識して施策を立てる

具体例

POINT

調査の結果から自校の課題をつかみ、4観点を網羅した取組を行う

- 1 「推進体制の構築」（校内研修、学テの分析等）
 - 2 「授業改善」（学習規律、実践プログラムの活用、まとめを自分の言葉で書く等）
 - 3 「家庭の協力」（家庭学習の確認依頼、生活習慣について保護者会で話題にする等）
 - 4 「教育課程の編成」（朝学習の実施、放課後10分間学習等）
- 一部の教師や教科担当だけでなく、学校全体で4観点を意識化し、組織的に取り組む。

<4観点を網羅した施策をたて、学力向上に成果がみられた小学校の取組（北総地区）>

「推進体制の構築」

① 調査問題の分析

○全国学力・学習状況調査や総合学力調査の結果を各学年で分析

○誤答、無解答の割合を取り出し、実態を把握

大問	小問	設問内容	誤答割合	無解答割合
5	1	240gの30%は何gかを求めて選ぶ	13.4%	0%
	2	割合の文章から、もとにする量と比べられる量を読み取る	33.4%	0%
	3イ	いちごが好きな人数と割合をもとに全体の人数を求める	46.7%	20%

② 指導方法の工夫

○授業で使える指導方法を提示

○「全国学力・学習状況調査を活用したアイディア例」の指導案を単元一覧に位置付け

学習過程	指導方法
見いだす	・本時の考えのもととなることを、既習事項で振り返る場面を設定 ・具体物を使って提示 ・実生活の中から素材などを提示
自分で取り 組む	・既習事項を振り返らせ、見通しをもたせる ・考えの手立てとなるキーワード（考えのもと）を出させる

「授業改善」

① 調査問題から授業づくり

- 全国学力・学習状況調査を全職員で解き、今求められている力を分析
- 誤答の多い問題に対しての授業づくり

② 話型の活用

- 話型のモデルや聞き手の型を掲示
- 授業で活用できるよう、「話す・聞くチェックシート」を作り、児童の意識化を図る



授業づくりの様子

	話し方の話型	聞き方の型
1 ・ 2 年	自分の考えを 分かりやすく話そう。 ○ブロック、図などをつかって話そう ・ブロックをつかって… ○じゅんじょが分かることばをつかって話そう	友だちの考えを さいごまでしっかりと聞こう。 ○話す人に体をむけ、うなずきながら聞こう ・うんうん ○どんな考えか、しずかに聞こう ・なるほど・わかったよ・そうなんだ・へえ
3 ・ 4 年	自分の考えを 分かりやすく話そう。 ○絵や図、表を使って話そう ・この図のように… ○けつろんを言ってから、理由を	自分の考えと くらべながら聞こう。 ○話し手に、はんのうしながら聞こう ・わかるわかる・そうだよ・それでそれで ○自分の考えと同じところ、ちがうところを

「家庭の協力」

- ① 毎日の家庭での学習習慣の確立
(10分) × (学年) を学習の目安時間として、年度始めに手紙や学校便りを活用して保護者に協力依頼
- ② 「家庭学習がんばり表」の活用
実施時間や振り返りを記入するようにし、児童の取組を教師が把握

/ ()		宿 題		分
保護者印	担任印	自学	計画	分
/ ()		宿 題		分
保護者印	担任印	自学	計画	分

「教育課程の編成」

① 朝の10分間の活動

- 月・水 ➡ 読書タイム
- 火・金 ➡ はげみの時間 (学習の基礎・基本の定着を図る)
- 木 ➡ 聴く聞くドリル (聞く力を高める)